

1 単元名 「カレンダーで手提げ袋を作ろう！」

2 単元について

特別支援教育における最も重要な課題は、「社会を生き抜くための力をどう身につけるか」である。

これまでに「先輩の進路に学ぶ」を始め、「校外学習に向けて」や「居住地校交流」など様々な活動に取り組んできたが、中学校の生活を振り返ってみると大半の時間は教科・領域を合わせた学習による知識や技能の習得と理解力の向上にあるように思う。

生徒たちの卒業後の生活を考えたときにいちばん願うことは、働く生活にたどり着き、周囲の人たちと上手く関係を築きながら自己有用感を感じられる生活を送って欲しいということである。これは人間としての総合力のようなものであろう。

そこでこうした人間の総合的な力が試される場面の多い「ものづくり」（作業学習）を通して、知識や技能を学び、思考・判断力を働かせながら心をこめて製品を完成することができるよう、支援・指導の方法を考えていきたい。

本単元の作業内容は、使用済みのカレンダー2枚一組を貼り合わせて手提げ袋を作ろうとするものである。買い物をしたときによく目にする紙製の手提げ袋であるが、その構造や作り方にまで考えを発展させようとする人はそう多くないだろう。当たり前のように手に触れたり使ったりできるものであるが故に、あえて深く掘り下げる必要がないのかも知れない。

しかし、この活動には製品を完成させるだけでなく、「教わった通りの正しい手順」や協働を通して身につく「コミュニケーションの取り方」、個々の仕事が他の役に立っていることが実感されるような要素が各所に散りばめられている。

また、出来上がったものは普段お世話になっている人たちにプレゼントしようという活動のまとめにもなっている。かつて、平成26年度に在籍した先輩たちが千葉県立千葉特別支援学校高等部との居住地校交流で取り組んだことのある活動でもある。当時の完成品を見せると、「へーえっ、自分たちで作れるんだ・・・」と現在の生徒たちにも興味関心はもてたようである。

3 単元の目標

(1) 手提げ袋の構造や作り方を知り、完成したときの感動を味わう。また、お世話になっている人たちに心を込めて製品を作る。 **【関心・意欲】**

(2) 指示をよく聞いて、ゆっくりでよいので正しいやり方で作業する。 **【知識・技能】**

(3) スライドや見本を手がかりにしたり、お互いに質問・相談をしながら協働する。 **【思考・判断・表現力】**

4 生徒の実態

今年度、本学級は知的障害学級（1年生女子1名）と自閉症・情緒障害学級（3年生男子1名）の2学級でスタートした。

【生徒 A】 小学校通常学級に6年間在籍。中学校への入学を機に特別支援学級に学びの場を移した。（1年生女子）教科を中心とした学力面にも課題はあるが、周囲との人間関係づくりや外的な環境に対する耐力をつけることの方が喫緊の課題である。

【生徒 B】 小学校特別支援学級に後半3年間在籍。課題が克服できたとの理由（3年生男子）から、中学校入学時に通常学級に転籍。しかし、小学校の後半で通常課程の学習が不十分であったため、学力不振に苦しみ2年次より特別支援学級に再び転籍し、読み書きを中心とした学習を行っている。

通称D組（知的障害学級）とE組（自閉症・情緒障害学級）の障害種別の学級編成の形をとってはいるが、日常生活は一緒に活動している。学習活動では、国語・数学・英語を始めとした5教科については専科の教師が授業を行い、特別支援担当職員はT2，T3として個別の指導・支援に当たっている。その他にも音楽や技術・家庭、美術の技能教科にも応援の職員がおり、1週間に12時間分の個別・グループ別の対応ができる環境にある。

また、一部の教科や特別活動、給食については本学級の生徒が通常学級に交流することもある。勿論、各学年・学校全体の行事については、それぞれの学年ごとに交流学級に所属しながら参加することを基本にしている。このような考え方の下、出張等で学級担任が不在の場合にも、通常学級の職員が特別支援学級をフォローできる体制が整えられている。

生徒たちは全般にこちらの話をはほぼ理解できる。語いの少なさから細かいニュアンスの理解・表現が難しい生徒もいるが、本時の活動ではお互いのやりとりを通して、ものづくりの楽しさを味わい、それぞれの力を存分に発揮して欲しいと思う。

5 単元の指導計画（9時間扱い）

学 習 内 容	時 数
・「手提げ袋」完成までのイメージを持ち、作り方を知る。 試作品を作ってみる。	1（本時）
・反省をもとに、個数を決めて製作をする。	7
・出来上がった紙袋を検品し、お世話になっている人に届ける。	1

6 本時の指導

(1) 目標

- ①完成品のイメージを持ち、作り方の手順を理解して作ることができる。【知識・理解・技能】
- ②困ったときには、お互いに質問したり相談したりすることができる。【思考・判断】

(2) 個別の目標と手だて

生徒	目標	手だて
◆ A (1年) (知的)	・作業手順を理解し、確認しながら ていねいに作業することができる。 ・積極的に質問、相談できる。	・スライドを使って視覚的に手順を導入する。 ・紙面に線を引く工程では、補助具を用意して、 ストレスなく活動できるようにする。 ・担当教師が言葉掛けして励ます。
■ B (3年) (情緒)	・作業手順を理解し、ていねいに作業 することができる。 ・時折、上級生として仲間の様子に気 を配りながら活動することができる。	・スライドを使って視覚的に手順を導入する。 ・両面テープを使って、表と裏の2枚を貼り合わ せる工程や折り上げる活動を教師と一緒に 行う。

(3) 本時の展開

過程	学習内容と活動	教師の支援及び指導上の留意点 (○：評価【】：方法)
導入 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ：号令 (日直) ・「カレンダーで手提げ袋を作ろう！」の スライドを視聴する。 ・使用する道具と使い方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要所要所でスライドを止め、ゆっくり説明する。 ・期待感がもてるように楽しい雰囲気をつくる。 ・道具があれば大丈夫の安心感をもてるようにする。
展開 (30)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">目標</p> <p>手提げ袋の作り方を知り、実際に作ってみよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・役割分担と、支援する教師の担当を確認する。 ◆ Aさん：補助具を使って「折り線」を引く 4セット分が引けたら、終了。 折り上がったものに穴を開け、 穴の上に8カ所にシールを貼る。 ■ Bさん：貼り合わせた筒状の紙を折り上げ る。 2セット分は組み上げて完成さ せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当を発表し、作業場を指示する。 (T1) ・台紙の枠の中に番号のついた段ボールのパーツを 順番に入れて、線を引いていくよう指示する。 (T2) ・全て引けた状態の「見本を」側に置いて、随時見比 べることができるようにしておく。 ・両面テープで貼り合わせるまではT1が行い、 Bさんに言葉掛けをしながら作業する。 (T1) ・2回目は貼り合わせ作業にもトライしてみる。 ・3段階程度に分けた「折り」の見本を置いて、見比 べることができるようにしておく。 (T1)
	<ul style="list-style-type: none"> ・試作品の状態を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が担当生徒ごとに目標が達成できているか確認

ま と め (10)	・反省を発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ・よくできたこと ・難しかったこと ・次回の課題 </div> ・次回の予告を聞く ・あいさつ：号令（日直）	する。 ・線引き → T 2（縦・横・角の線が終了している） ・折 り → T 1（折る場所の正確さ、貼り方） ○発表を行う。 【 挙手・カードへの記入 】 ・意見や感想を教師が板書する。（生徒A、T 2） ・良かった点や課題も含めて話せるよう促す。 <div style="text-align: right;">（生徒B T 1）</div>
-------------------------	--	---

(4) 本時の評価

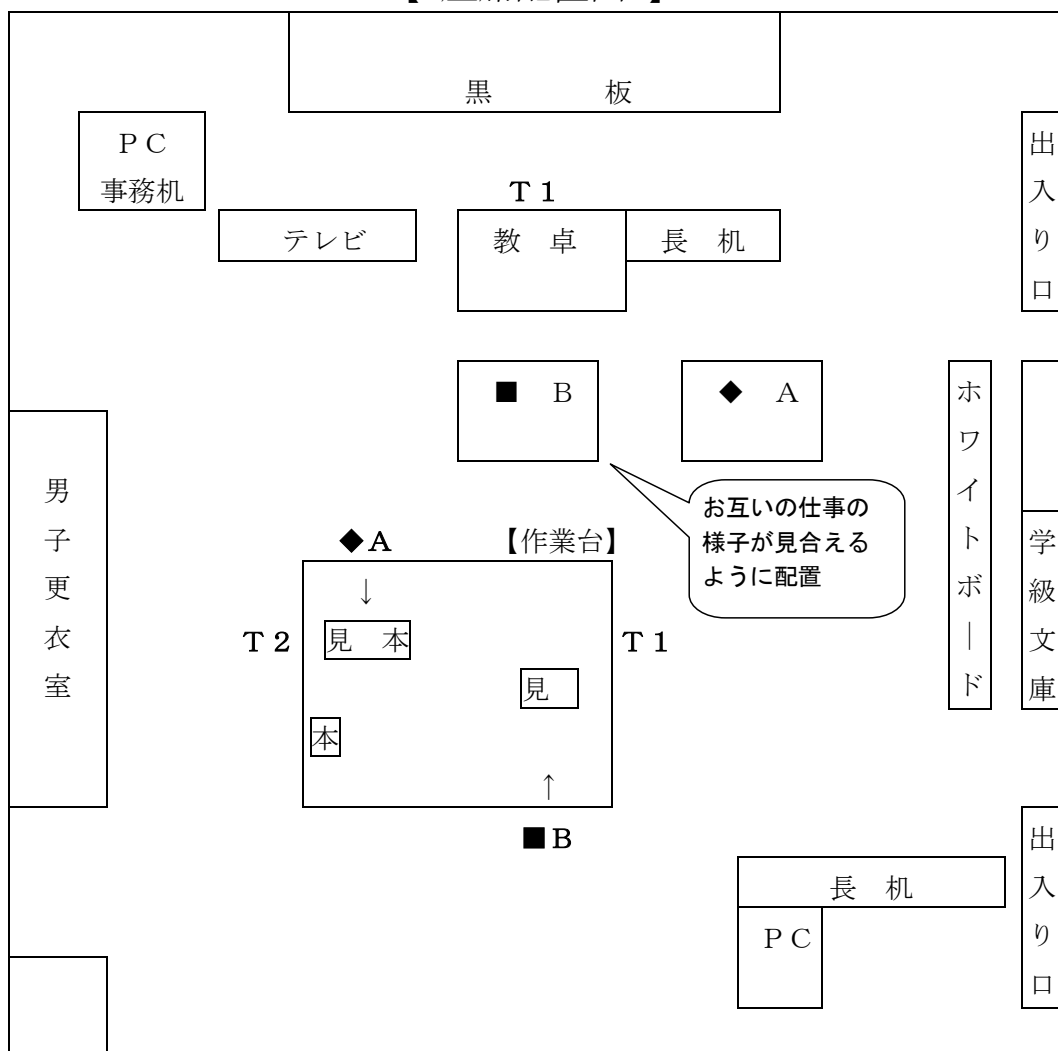
①完成品のイメージを持ち、作り方の手順を理解して作ることができたか。

【知識・理解・技能】

②困ったときにはお互いに質問したり相談したりすることができたか。

【思考・判断】

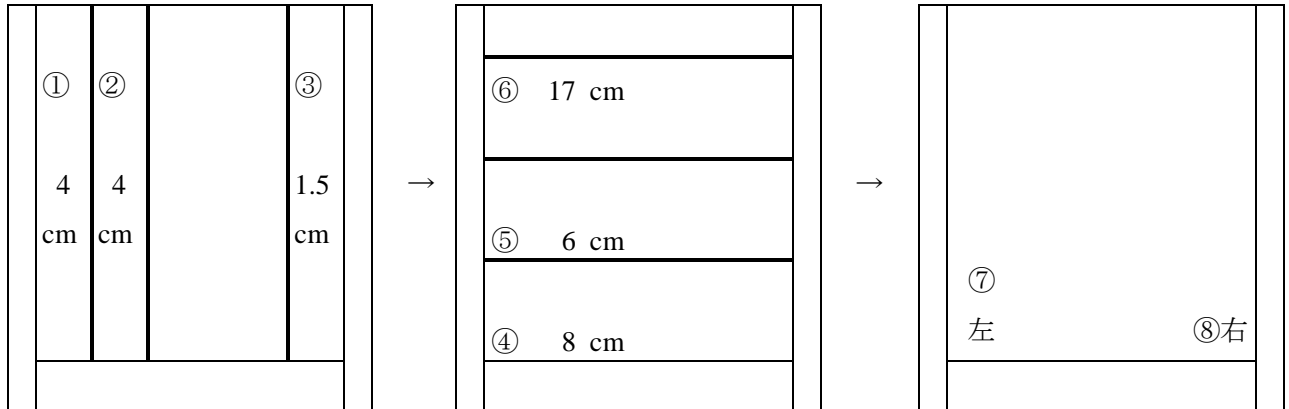
【 座席配置図 】



【資 料】

【 折り線を引く補助具 】

＜ 縦の線を引く ①～③ ＞ ＜ 横の線を引く ④～⑥ ＞ ＜ 角の斜めの線を引く⑦⑧ ＞



【 評価と反省の記録 】

生徒A () 年 () 組 () 番 氏 名 ()

	評 価 項 目	評価
①	縦の線を正確に引くことができたか	
②	横の線を正確に引くことができたか	
③	斜めの線を正確に引くことができたか	
④	ひもを通す穴を開けシールを貼れたか	
⑤	わからない所を聞くことができたか	

※ 評価は、よくできた・・・◎
 まあまあ・・・○
 課題がある・・・△

良くできたところ	
次回の課題	

生徒B () 年 () 組 () 番 氏 名 ()

	評 価 項 目	評価
①	2枚の紙を正しく貼り合わせられた	
②	折り線の通りに折ることができた	
③	底の部分の貼り合わせが正しくできた	
④	周囲に気を配り、言葉をかけることができたか	

※ 評価は、よくできた・・・◎
 まあまあ・・・○
 課題がある・・・△

良くできたところ	
次回の課題	

※ 生徒Bの記録用紙には、漢字にルビを振ります。